

令和4年度地域運動部活動推進事業

休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	北九州市教育委員会 担当課：学校教育部生徒指導課 電話番号：093-582-2369
------	---

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	62校	② 生徒数	22,383人	③ 部活動数	739部活
--------	-----	-------	---------	--------	-------

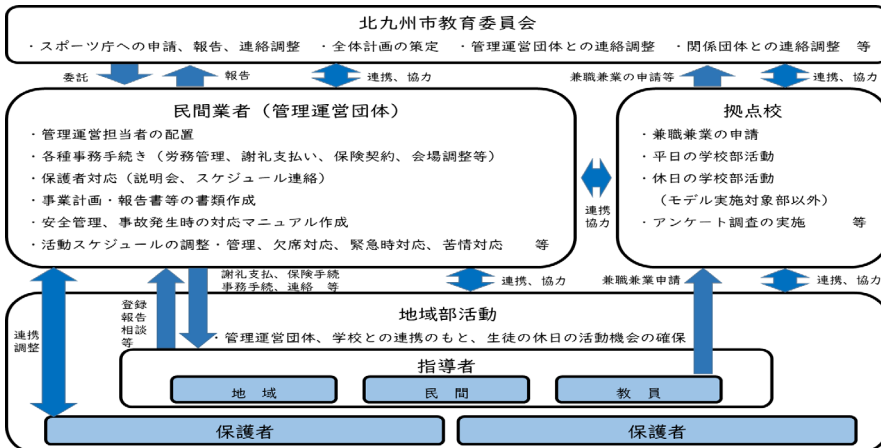
1.2 地域における現状・課題

本市における学校部活動は、二極化の状態にある。都市部の学校では、生徒数が多く、満足のいく活動ができる一方、近郊部では、少子化の影響から数人で部を編成しなければならない学校や生徒の希望する部が編成できない学校がある。また、共通の課題として、専門的な知識をもった顧問の確保が難しく、生徒の要望に応えられない部が多数存在する。以上の状況から今後継続して安定的に部活動を運営していくことは困難であるとする。

1.3 実践研究における取組目標

「学校の働き方改革」という趣旨を踏まえたうえで、地域移行の効果や満足度、費用負担の在り方などについて、生徒・保護者へのアンケートを実施し、調査・検証する。また、生徒や保護者が満足する取組となり得るかどうかについてアンケートを実施し、調査・検証する。

1.4 実践研究の運営体制



2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

教育委員会内部の委員会である「北九州市部活動在り方検討会議」を年2回行い、本市における課題の整理を行った。令和5年度は、有識者会議を市政運営上の会合として立上げ、地域移行の在り方を検討する予定である。

各中学校において「部活動地域移行」に関する職員研修を行い、「地域移行に思うこと」や「今後の教職員の関わり方」について意見をもらった。また、市PTA協議会において部活動地域移行の説明をするとともに、意見をもらった。今後、各学校や各地区PTAの会議の際に意見交換の場を設ける予定である。さらに、市立中学校に所属する中学生約140名を対象に、オンライン交流会「これからの部活動の話をしよう！」を開催し、活動する際の困り感や将来の展望について、中学生どうしが意見交換を行った。

3. 実践研究校における取組について

3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	域内全62中学校のうち、5校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	5部活
③ 種目	野球部、陸上競技部、バスケットボール部、卓球部、バレーボール部

≪主な取組例（1）≫…北九州市立篠崎中学校

① 運営主体	北九州スポーツクラブ ACE（総合型地域スポーツクラブ）		
② 種目	陸上競技	④ 参加者数	41人

④ 活動日	土曜日	⑤ 活動場所	中学校グラウンド
⑦ 指導者人数	2人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	北九州スポーツクラブ ACE（総合型地域スポーツクラブ）より2名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収なし		

《主な取組例（2）》…北九州市立高見中学校

① 運営主体	北九州市卓球協会		
② 種目	卓球	④ 参加者数	8人
④ 活動日	土曜日	⑤ 活動場所	中学校卓球場
⑦ 指導者人数	2人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	北九州市卓球協会より2名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収なし		

3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

【生徒】

- ・出来なかった所やどうやるか分からないところかを教えて貰って出来るようになったり、分かたりする事が出来た。

【保護者】

- ・専門の方のご指導はとても勉強になり、技術面はもちろんのことですが精神面も前向きになったようでとてもよかった。

【教師】

- ・休日の指導が軽減された。

【指導者】

- ・少しずつではあるが、生徒の成長過程を見ることができたのは良かった。
- ・生徒が練習中にふざけたり、他人を傷つけたりした際に、どこまで言ってよい（指導してよい）かが分からなかった。

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

- ・学校（顧問）と各団体（指導員）の連携について、以下のような課題が残った。
 - ① グラウンドや体育館等学校施設の使用について、モデル以外の他の部活動が使用するため、実施団体の指導者が指導したくても満足に場所が使用できないことがあった。
 - ② 練習の日時について、顧問と指導員の連絡体制が整備できず、指導が中止の日に指導員が学校に行ったり、指導が予定されている日に指導員はいるが生徒が来なかったりという事態が発生した。
 - ③ 顧問と指導員の関係について、指導に関する方針が異なり、指導員が顧問から受け入れてもらえなかったとこで、指導員が専門的な知見から指導計画や練習内容を練ったにもかかわらず、満足な指導を行わせてもらえなかった。

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

- ・生徒及び保護者に行ったアンケート調査では、生徒 4.2/5.0、保護者 3.8/5.0 と概ね満足感を得る結果となった。「出来るようになった」、「成長を感じることができた」というアンケート結果からも、専門的な指導員による指導を受けることが、生徒、保護者の求めるものの一つであると確認することができた。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

<p>【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 練習日程等の連絡の行き違い → スケジュール管理アプリ等の導入を検討 	<p>【受け皿団体の確保方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 受け皿団体の不足 → スポーツ少年団、各競技団体、NPO法人等への周知を検討
<p>【指導者の確保方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導者の不足 → 人材バンク等設置の検討 	<p>【地域移行の自走化に向けた方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係諸機関の連携 → 検討会議の立上げ